

## メープルレター（105）

### 小さな春の足音

春が近づいているようです。道端には、小さな2－3センチのチューリップの芽と葉がいくつか見られるようになりました。雪は消え、雨の日が多くなりましたが、春の足音が少しだけ聞こえてきます。マダム田中の散歩の距離が延び、立ち寄る場所も広がってきました。港の前の広場を散歩する子供も犬もうれしそうです。

「和子、やっとメープルの樹液が何とかとれそうなんだ。」

義理の次男のうれしそうな声が電話口からきこえました。春の到来が遅かったせいか、メープルは樹液をださず、缶はからのままメープルの木にぶら下がり、この頃やっと何とか搾りだす程度に出始めたようです。次男の家の庭の片隅の3本のメープルの大木から、たっぷりとれば、煮詰めて、半年分のメープルシロップが作れるそうです。北国のケベックでは春はなによりメープルシロップ作りから始まります。メープル業者のメープル園は見渡す限り、缶がぶらさげたメープルの木の列が続き、壮観だそうです。娘も美味しいメープルシロップ料理（甘いのですが、伝統的な料理）を楽しめるシュガーシャックに家族で出かけていきました。メープルシロップは、ホットケーキやクレープにかけたり、砂糖代わりに料理に使ったりしますが、モヒートなどのカクテルに使っても美味しいようです。

大学の研究予算の認可があり、国と州から3件ほど5年間分充分に研究費もらえ、研究に専念できると喜んでいた次男は、さしあたっては、メープルシロップ作りに専念するようです。

「なんで、大学教授が研究もせずメープルシロップ作りなんだ？」

ドリトル先生は、いささか疑問と不満を感じているようです。そんなある日、

「和子、今度の土曜日の朝9時に家族でそっちに行くから。そうそう、妹たちもくるって言ってたよ。コーヒーとペストリーの朝食でいいから。」

「えー！」

マダム田中が知らない所で、次男と娘の間で、話しは勝手に進み、日も時間もおもてなしの内容までも勝手にきめられていました。そういえば、イースターの頃でした。ということ、チョコレートの調達もしなくては。娘に聞くと、

「そうなの、そうなの、土曜日に行くことにしたから。私は、バゲットとチーズをもっていくから。」

ということは、完全にブランチ。朝食ではありません。それに、次男の12歳の娘は、ペストリーよりサーモンの握り寿司の方が好きなのです。あーなんてことだ、サーモンを調達して、お寿司のような切り身にしなければ、寿司めしも用意しなくては。。。結局マダム寿司の出番になりそうです。ケーキ屋さん、子供達のようにイースターの特別ケーキを注文し、ペストリーもお店が空にならない程度に12-13個注文しておくことにしました。

「貴方のお嫁さんはどうするの？来るの？」

次男の嫁は1月始めに図書館の前のアイスバーンで滑って転んで足首を三か所、複雑骨折し、やっと治療用のブーツがとれたところです。痛みはとれず、きちんと歩ける状態ではなく、時折、ブーツを履いて足をやすめているようです。リハビリをきちんと続けても、回復までは長い道なのではないかと思えます。きちんとアイスバーンに塩をまいておかなかつた市を訴えていると、どうやら嫁は息まいているようです。医療費はここでは無料ですし、病欠をとって仕事も休めるので、そこまで頑張らず、リハビリに専念した方が良くないかなあとは思いますが、一人で燃え上がっているようです。皆、一同、ため息を深くついておりました。

「来ないと思うよ。。家でのおんびり休んだりリハビリした方が良くと思うよ。」

「そうだね。」

こうして、イースターの土曜日の早朝は賑やかに3家族が集まりました。イースター用の特別ケーキは、ケーキの台が鳥の巣のようにくるくとチョコレートクリームが渦巻き、その上にホワイトチョコの卵が乗った可愛いケーキでした。次男の長男は日本のファッションに憧れ、今回も、日本から取り寄せた素敵なパンタロンを履いていました。日本のキャラ弁に憧れる次男の娘は、サーモンのお寿司を一人占めしておりました。

「やっぱり作ってくれたのね、ありがとう。」

「それは、そうよ。6時起きして作ったわよ。あー疲れた。」

マダム寿司は、老骨に鞭を打ってこの日は忙しくしておりました。考えてみれば、次男にも娘にも、ここは頑張らずにリラックスできる唯一の所なのかもしれません。そんなイースターの brunch の会話は、AI の使い方でした、AI のお陰で統計的なものや調査資料の要約などの時間が短縮され、仕事が本当に楽になったと次男、娘、婿殿は話していました。娘は、会社の AI の講習会を積極的に受けて勉強しているようです。ただし、口を揃えていったのは、AI は人間的な感情の評価はできず、結果はとっ散らかっていて、使い物にならないので、危険な面も多く、使いこなすにはかなりの勉強と能力を要するとは言うておりました。学生のなかには、AI で何でもわかるから学校には行く必要がないと言っている人もいるようです。AI と現実の差は社会の大きな課題にこれからはなるようです。パソコンすらろくに使いこなせない、アナログのマダム田中には、遥かに遠い、雲の上の話ではあります。。。

こうして瞬く間に、ペストリーはなくなり、サーモンのお寿司はなくなり、おいしいチーズと2本の美味しいバゲット（去年のモントリオールのバゲット大賞獲得の美味しいバゲット。味噌風味のみそバゲットが特に美味）も食べつくし、チョコレートを配ってイースターは過ぎていきました。そうそう、お嫁さんへのペストリーの手土産も、しっかりと、ひと箱次男に手渡しておきました。

こうして、AI など目まぐるしく変わる世のなかですが、人の心はそれほど簡単にはコントロールできるものではないようです。前々から、いつも通りがかりに興味をひかれるカフェがありました。年齢層、客層、性別もバラバラ、子供が走り回っているかと

思えば、ぼーっとしている人もいます。おなじみさんがおいしいコーヒーを飲みに来て  
いるという感じでもないのです。カップルでやって来る人達はいず、どの人も一人でや  
ってきます。カップルで楽しそうに話している人達はここで出会った人たちなのです。

ここは「離婚カフェ」。離婚した人だけがコーヒーを飲める所なのです。離婚証明でメ  
ンバーシップを登録して、コーヒーを飲みに来ます。普通の人はいれません。離  
婚の孤独や苦しさから逃れて、パートナーを見つけて、ここで一時楽しい時を過ごす人  
もいれば、子ずれでやってきて、ゆっくりする人もいれば、同じ境遇の人達と悩みを分  
かちあう人もいます。シングルマザーやシングルファーザーも多く、子ずれで来れば、  
子供の遊び友達も見つかり、コーヒー一杯で息抜きができるようです。まあ、面倒くさ  
くない対面のマッチングアプリのようなものかもしれません。でも、どの人も楽しそう  
なのです。その上、あちこちのお店や企業がサポートし、割引などの色々な特典もある  
ようです。若い人達だけでなく、熟年離婚もうなぎ上りの昨今は、離婚も商売になるの  
ようです。春先には、心も軽やかになるのか、離婚カフェは一杯です。

街角の人間模様は、お花畑のように様々に展開していきます。

